

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	イトス		
○保護者評価実施期間	令和8年 5月 1日		令和8年 5月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3人	(回答者数) 3人
○従業員評価実施期間	令和8年 5月 1日		令和8年 5月 15日
○従業員評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数) 5人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 5月22日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	マンツーマンに近い形での支援で児童の細かな変化を見逃さずに支援をすることができる。	保育園や幼稚園などの大集団では自分の気持ちを上手に表現することが難しい児童が多い。マンツーマンに近い状態で関わることで、自分の気持ちを受け止めてもらったり、安心して気持ちを表現したりすることができるようにしている。	職員を介した集団遊びをより充実させていきたい。
2	大まかな活動の流れを固定化することで、見通しを持って活動することができる。	活動プログラムは毎回内容を変えているが、「プリントが終わったら遊び」など見通しを持てるようにしている。また、活動内容を絵カードと文字カードで掲示することで、どの子どもにも1日の流れが分かりやすいように意識している。	今後も引き続き行っていく。
3	保護者にとって活動の内容が分かるような連絡帳を工夫している。	サービス提供記録を写真とともに丁寧に記録している。また、活動記録等も個人情報に留意しながら写真や文章で伝えるようにしている。	児発は保育園に送迎する保護者がほとんどのため、直接保護者と関り会える時間がすくない。今後もサービス提供記録を通じていない連絡を心がけたり、支援計画見直しの懇談などを通じて保護者が安心できるような連絡体制をとっていきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	各種マニュアルの策定や避難訓練等の情報発信について	各種マニュアルや避難訓練について情報を発信しているが、発信量もまだ少なく、保護者の皆様へ十分に伝わってない現状がある	保護者の皆様にしっかりと情報を伝えることができる仕組みづくりに取り組んでいく。また、避難訓練を定期的に行い、情報共有に努めていく
2	療育室の活動空間の整備	療育活動スペースがやや小さいため、活動プログラムによっては十分な活動スペースの確保に難しさがある。	構造上の設備変更は難しいため、折り畳みの机を使うなど活動に支障が生じないよう適切な環境整備に取り組んでいく。また、活動内容によっては、外部施設や公園等の活用を継続していく。
3	専門職による支援	専門職による直接支援が望まれるが、確保ができていない現状がある。	必要に応じて人材確保に努めていく。また、職員研修を継続して行うことで専門性につながる支援が行えるよう取り組んでいく。